

(備考)

- 1 用紙の大きさは、日本工業規格B4版とすること。
- 2 氏名を自署する場合には、押印を省略することができる。
- 3 本報告書は航海ごとに作成し、航海期間については、本邦の港を出港した日から本邦の港に入港した日までの間とする。
- 4 報告取扱責任者の欄には、漁獲成績報告書の作成責任者の氏名のほか、その者の連絡先として電話番号を必ず記載すること。
- 5 出港年月日及び入港年月日の欄には、出入港した港の名称を必ず記載すること。
- 6 航海日数及び操業回数の欄には、航海期間（出入港日を含む。）の日数及び操業回数の合計をそれぞれ記載すること。
- 7 乗組員数の欄には、外国人船員を含めた乗組員の総数を記載すること。
- 8 信号符字の欄については、総トン数100トン以上の船舶の場合は必ず記入し、総トン数100トン未満の船舶であっても点符のある場合は必ず記載すること。
- 9 漁具の操業方法の欄のメカ縄とは、めかじきを対象とする夜縄をいい、サメ縄とは、ねずみざめ等のさめ類を対象とする縄をいう。1航海中複数の操業方法を用いた場合には、最も多く用いた操業方法を○印で囲むこと。（まぐる類を対象とする操業にあってはその他を○印で囲むこと。）漁具の幹縄の種類及び枝縄の種類については、縄のほとんどがナイロンでできているものについてのみナイロンを、それ以外のものについてはその他を○印で囲むこと。
- 10 漁具の仕立ての欄については、枝縄長の欄にはスナッフから^{はり}鉤までの長さを、受け縄（浮玉）長の欄には浮玉から幹縄までの長さを、枝縄間隔の欄には幹縄における隣り合う枝縄の間隔をそれぞれメートル単位で記載すること。（下図参照）
- 11 操業期間については、航海中に最初の投縄を行った年月日と最終の投縄を行った年月日を記載すること。
- 12 操業年月日の欄については、投縄を行った年月日のみ記載すること。
- 13 正午位置の緯度及び経度の度分の欄には、必ず分単位まで記載し、N・Sの別及びE・Wの別の欄は、該当するものを○で囲むこと。
- 14 表面温度℃の欄には、正午位置における表面水温を小数点第1位まで記載すること。
- 15 浮玉間の^{はり}鉤数の欄には、浮玉間（一鉢当たり）の^{はり}つり鉤又は枝縄の数を記載すること。
- 16 使用つり^{はり}鉤数の欄には、当該操業に使用したつり^{はり}鉤の総数を記載すること。
- 17 魚種別漁獲量の欄には、上段には漁獲尾数を、下段には漁獲物の製品（以下単に「製品」という。）の重量をキログラム単位で記載すること。
- 18 陸揚等尾数合計及び陸揚等製品重量合計（トン）の欄には、製品を陸揚げ又は転載した時の魚種ごとの尾数の合計及び製品重量の合計をそれぞれ記載すること。
- 19 1航海当たりの操業日数が多く報告事項が2枚以上にわたる場合は、用紙の右肩に該当報告書の総枚数とその頁数を記載すること。（例えば、総枚数が5枚の場合は1枚目の用紙に1/5、2枚目の用紙に2/5のように記載し、以下同様に記載する。）

(図) 漁具の仕立ての概念図

